

種論百話 (九十七) 就立は藝に非ず

少年子弟相會して飲み酔ひ舞踊する者もなければ、其の... 或は舞ひは吟し時として、或は三曲を詠して其人の平... 生にも似ず、意趣ありて大鳴響を博するものとあり之を...

るもどなく、眞價を一括して、窮なりと、懸るも可なり此... 邊は大目に看過して、差支なければ、愛に忍ぶ可らざる... は此種の徳行家に限りて、動もすれば愛憎の輪念甚だし...

社説 政府の統一の實なし

現政府の組織は前内閣が割合に承継して人心の殆んど... 格みたる其後を承けたるものと、一時耳目を新にした... のの観なきに非ず、議會の有様は従来に引換えて、甚だ平...

ひるが如き我輩の敢てせざる所なれども、其部内には一... 成信の行れざる、清野の政府には安心して、政務を託する... を得ず、國の爲めに謀りて、甚だ取らざる所なり、思ふに政...

中上川氏の財政談

世に酒税の増加を主張するものあるは、唯一の酒税を増... して以て財政の維持を圖らんとする論か、知らぬが如く... 底酒のみに依りて、課税は往かぬ、論者の言ふ所に依...

うが車夫まで、... 諸人等にも住か... 来るものでない... 年の餘には、論者... から借金の繰入... 税を何倍にする... 論では、進も進付... 借金政策は不可... に借金するも、... 求むるかと謂ふ... 地租、地租を... の大財源にして... を以て、数千萬圓... 巨額税金をいふ... 眞、若夫れ新聞... して四億圓なり... 各種必要の事業... 各々、爾う云... の税を増さなけ... 四百萬石と見... 萬圓得らるる、... もならぬ、外に... らぬ、何に求む... 醬油税か、それ... る外ないと思ふ... 圓にする云ふも... 酒よりは、もつと... れば、四千萬圓位... 進と云ふとも、... たらば、とて少し... 併し、是れは今日... さうなれば、借金... も三億も借金し... で如何に、公債... を買ふもので、... 拾三年度のや... 本は分散國であ... 知れぬ、爾う... 落するかも知れ... すまどが、出来ぬ... や、資金の通り... 營業税は善い手... 油税も面白から...